口腔内装置の洗浄を洗い出す

お手入れのポイントと泡タイプの洗浄剤「ホイップクレンズ」

義歯などの口腔内装置を用いた診療において、診断や装置の製作などとともに患者さんの健康を支える重要な要素となるのが、装置の衛生管理です。今回は、あらためて口腔内装置の洗浄の考え方や勘どころを押さえるきっかけになればと思い、分野に精通する先生方にディスカッションをお願いしました。

• 司会
佐氏英介 先生
Eisuke SAUJI
サウジ歯科クリニック 院長

• ゲスト
上田貴之 先生
Takayuki UEDA
東京歯科大学
老年歯科補綴学講座 主任教授

• ゲスト
加藤正治 先生
Shoji KATO
高輪歯科 院長

• ジーシー
片岡康弘
Yasuhiro KATAOKA
株式会社ジーシー 上席執行役員

上下顎総義歯装着者 68名
(男性33名、女性35名、平均年齢:74±8歳)

(Spearmanの順位相関係数)

調査項目	r_s	p
安静時唾液量	−0.602	0.000
唾液 pH	0.035	0.775
唾液粘度	0.262	0.063
唾液中ヒスタチン量	−0.265	0.119
舌苔付着程度	0.627	0.000
舌圧	0.078	0.528
デンチャープラーク付着程度	0.452	0.000
無歯顎になってからの期間	−0.095	0.442
口腔清掃頻度	−0.472	0.000
年齢	0.486	0.000

Ryu M., Ueda T., Saito T., Yasui M., Ishihara K., Sakurai K.
Oral environmental factors affecting number of microbes in saliva of complete denture wearers.Journal of Oral Rehabilitation, 37:194-201, 2010

表1　唾液中の総嫌気性菌数と各因子との相関関係を示した表。赤文字の項目が統計学的に有意とされる。

図1　きめ細かく垂れにくい泡を特長とする口腔内装置用洗浄剤「ホイップクレンズ」。2025年11月に医院用の大容量タイプ(990mL)を発売。

機械的洗浄+化学的洗浄で口腔内装置の正しい洗浄を

佐氏　今回の座談会は口腔内装置の洗浄がテーマです。義歯をはじめとする口腔内装置の洗浄についてきちんと理解している方は意外と少ないのではないでしょうか。私もここで知識を更新し、意識を変えていければと思っています。

ゲストには東京歯科大学老年歯科補綴学講座主任教授の上田貴之先生、東京都でご開業の加藤正治先生をお招きしました。義歯の洗浄が話題の中心になりますが、他の口腔内装置にも関係するところですので、そちらにも触れていければと思います。

最初に、そもそもなぜきちんとした義歯洗浄が大事なのか、上田先生に解説をお願いします。

上田　義歯を洗浄して清潔に保つことの重要性は、口腔衛生管理の観点から考えるとわかりやすいと思います。主に義歯を使用する高齢者の場合、誤嚥性肺炎の予防が口腔衛生管理の目標のひとつです。誤嚥性肺炎を予防するには唾液中の微生物を減らすのが有効ということはすでに多くのエビデンスが出ていますが、その唾液中の微生物がどこから来るのかということは実はあまりわかっていません。ひとつの答えとしては歯面のプラークが挙げられます。プラークコントロールが悪ければ唾液中の細菌数が増えるのは間違いなく、ブラッシング指導などはもちろん大事です。ではそれ以外の要因は何かということで、無歯顎の患者さんを対象に唾液中の総嫌気性菌数に関与している因子について調べたところ(表1)、強い相関が認められたのは、安静時唾液量と舌苔の付着程度、口腔清掃の頻度、年齢、そしてデンチャープラークの付着量でした。適切な義歯洗浄をしないと唾液中の細菌数が増え、ひいては誤嚥性肺炎の原因にもなるということで、我々はこれを軽視せず、しっかりと取り組んでいかなければなりません。

佐氏　では、基礎のところから考えていきます。基本的に口腔内装置はどのように洗浄するべきなのでしょうか。

上田　洗浄の方法について間違いなく言えるのは“機械的な洗浄と化学的な洗浄を併用して行う”ということです。ただ、これ以外に学会などでコンセンサスが得られていることは実は少ないんですよね。

機械的に汚れを落とすものとしては一般的には義歯ブラシが挙げられ、私も基本的に義歯ブラシを使っていますが、歯ブラシを使う方もいるでしょうし、超音波洗浄器という選択肢もあります。一方、化学的な洗浄にあたる洗浄剤も多様な製品がありますが、これでなければならないといったこともありません。

佐氏　機械的な洗浄と化学的な洗浄の併用が基本で、やり方や使えるものはいろいろあるということですね。

垂れにくい泡で使いやすい洗浄剤「ホイップクレンズ」

佐氏　その化学的洗浄の一翼を担う製品としてジーシーでは昨年より泡タイプの洗浄剤「ホイップクレンズ」を販売しています。こちらの紹介をお願いします。

片岡　弊社では昨年11月に口腔内装置用洗浄剤「ホイップクレンズ」を発売いたしました(図1)。環境・衛生関連用品メーカー サラヤ株式会社の界面活性剤可溶化技術と弊社の歯科材料の知見を合わせて開発した泡タイプの洗浄剤で、義歯をはじめマウスピース、矯正用リテーナーなど口腔内装置全般にご使用いただけます。

「ホイップクレンズ」はきめ細かく垂れにくい泡が特長で、汚れに密着し、しっかりとした洗浄効果を得られます。また、研磨剤を配合していないため、ブラシ等で磨いても口腔内装置を傷つけにくく、安心してお使いいただけます。泡タイプですので、口腔内装置に乗せて60秒間ブラシで磨いて洗い流すだけで簡単にお手入れが可能です。

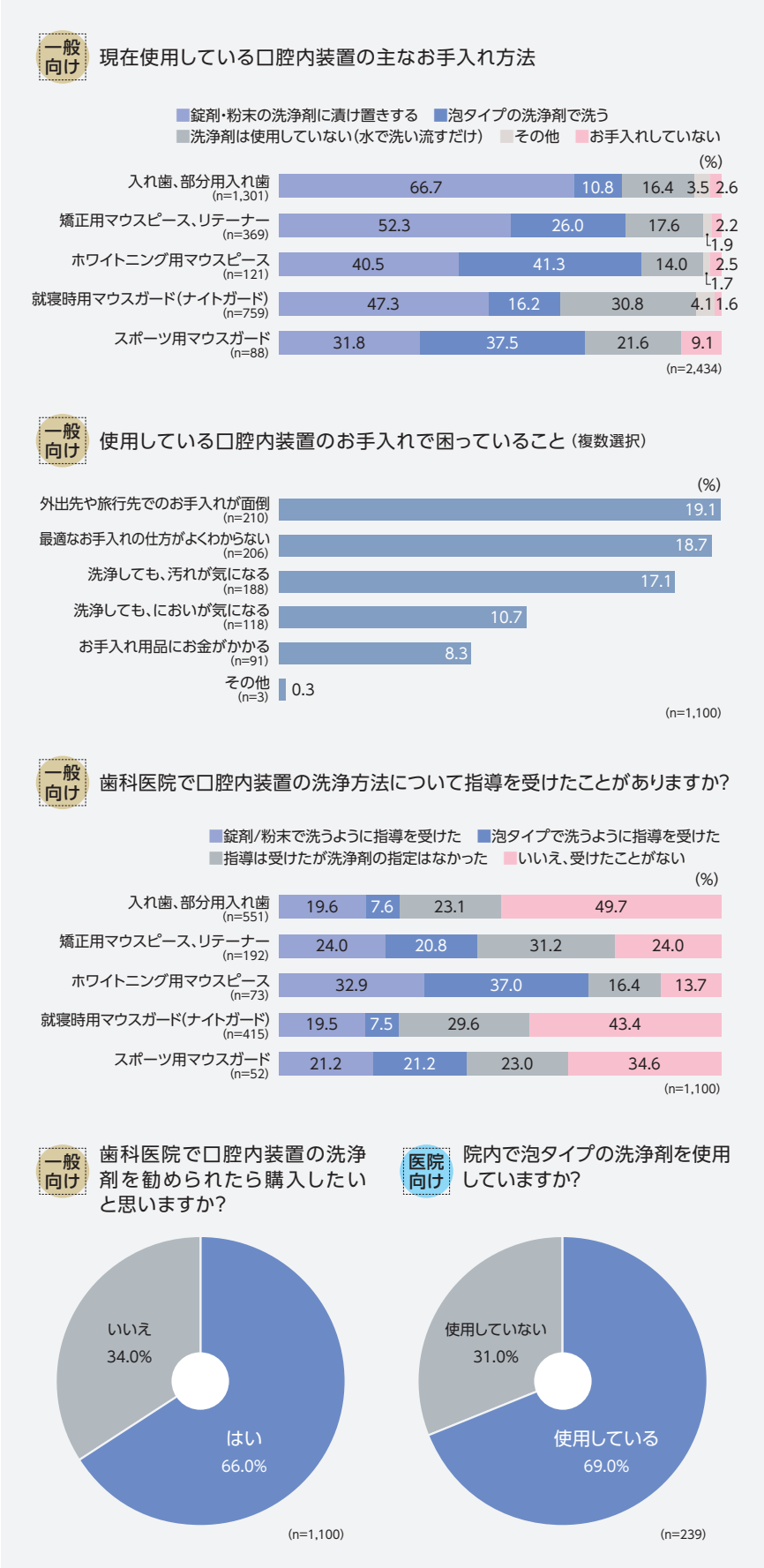

図2　ジーシーが実施した、口腔内装置のお手入れに関するアンケート調査の結果（一般向け：2024年7月実施　医院向け：2024年9月・2025年5月実施）。

漬け置き時間が不要のため、においや汚れが気になったときにサッと使用できます。除菌率に関しては、「ホイップクレンズ」を使って60秒間ブラシで磨くだけで、肺炎桿菌やベイヨネラ菌などを99.9%除菌できることが確認できております。

口腔内装置洗浄に関するアンケート結果

片岡　「ホイップクレンズ」に関連しまして、弊社で一般の方と医院向けに実施した口腔内装置のお手入れに関するアンケート調査から一部ご報告いたします（図2）。

口腔内装置を使用している方にそのお手入れ方法について尋ねた結果、装置の種類によって差がありますが、全くお手入れを行っていない方は少ないことがわかりました。また、全体的に泡タイプの洗浄剤を使っている方は少ない傾向にありました。お手入れで困っていることを尋ねた結果では、お手入れが面倒、最適な方法がわからない、洗浄しても汚れやにおいが気になるという意見が多かったです。お手入れの方法を歯科医院で指導されたことがあるかという問いには、義歯やナイトガードにおいて指導を受けたことがないという回答が多く、指導は受けたが洗浄剤の指定はなかったという方も一定数いらっしゃいました。ただこのあたりは、指導されたもののそれを忘れてしまった方も多いのではないかと推測しております。そして、歯科医院で洗浄剤を勧められたら購入したいと思うかという問いには「はい」と答えた方が多く、患者さんは私たちが考えているよりも、歯科医院で洗浄剤を勧められたら購入したいという気持ちがあることがわかりました。

また、院内での使用状況の調査では69.0%の医院で泡タイプの洗浄剤を使用していました。このことから、院

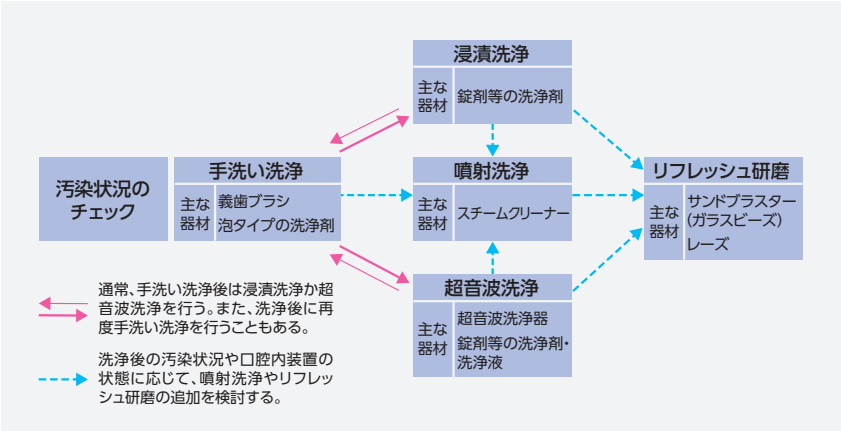

図3　高輪歯科における口腔内装置の洗浄のワークフロー。

図4　汚染状況のチェックでは、義歯の染め出しで清掃できていない部位を把握する。写真は「プラークチェックジェル BR」で染め出した状態。

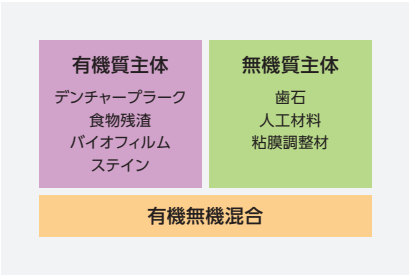

図5　汚れのタイプのおおまかな分類。有機質主体の汚れにはアルカリ性の洗浄剤、無機質主体の汚れには酸性の洗浄剤を選択する。

図6　高輪歯科の口腔内装置の手洗い洗浄では「ホイップクレンズ」を使用。「ジーシー プラティカ ディスポーザブル口腔ケアスポンジ（Mサイズ）」を使用する場合も多い。

内向けには大容量の泡タイプの洗浄剤の需要があることがわかりました。また、既発売の180mLをご使用の医院からも大容量タイプの要望を多くいただき、院内向けに990mLの大容量ボトルを本年11月より販売することにいたしました（図1）。口腔内装置を新たに製作した際やメインテナンスの際に大容量ボトルの「ホイップクレンズ」をお使いいただき、患者さんにお手入れ方法を説明するときには180mLボトルの「ホイップクレンズ」をご紹介いただく。そのような流れでお使いいただくことで、患者さんのお困りごとを解決できればと思っております。

加藤　院内で使っているプロ仕様のものと同じ製品を患者さんが家庭でも使えるという流れは、レベルが高い製品を印象付けられて良いですね。

プロフェッショナルケアのワークフローを考える

佐氏　ここからは、口腔内装置の洗浄の詳細にフォーカスしていきます。洗浄には院内で行うプロフェッショナルケアと、患者さん自身が日常的に行うセルフケアがあります。プロフェッショナルケアのポイントについてお話を伺います。加藤先生お願いします。

加藤　患者さんが使用している口腔内装置を院内で洗浄するのがプロフェッショナルケアで、歯周病の予防などと同じく、定期的にきちんと状態をチェックして、徹底的にきれいにすることが大事だと考えます。

当院の口腔内装置の洗浄ワークフローは図3のようになっております。最初に行うのは汚染状況のチェックで、汚れのタイプや汚れている場所、汚れの程度などを確認します。義歯のプラークが付着しやすい場所はだいたい決まっていますが、必ず染め出しして、患者さんが慢性的に落とせていない部位の把握も行います（図4）。

佐氏　汚れのタイプはどういった分類をされているのでしょうか。

加藤　付着した汚染物質が有機質主体か、無機質主体か、その混合かといった分類です（図5）。これにより洗浄剤は酸性とアルカリ性のどちらが良いかといった選択につながります。

汚染状況のチェック後の洗浄では、最初から洗浄液を使うと義歯床などが傷むため、手洗い洗浄から始めます。着色汚れなどの場合は浸漬洗浄や超音波洗浄から始めることもありますが、基本的に“泡タイプの洗浄剤などの界面活性剤で、落とせるものは落としてから”という考え方で良いと思います。この手洗い洗浄では、「ホイップクレンズ」と「ジーシー プラティカ ディスポーザブル口腔ケアスポンジ（Mサイズ）」を使うことが多いです（図6）。一度義歯などを磨いたブラシを別の患者さんの口腔内装置の洗浄に使うことに抵抗がありますし、院内ではなるべくディスポーザブルを用いるべきだと考えています。かといって新品の歯ブラシを毎回下ろすのはコストがかかるということでディスポのスポンジをよく使うようになりました。

上田　私もこのスポンジはデリケート

ゲスト・上田貴之 先生

な口腔内装置を磨くのに重宝しています。義歯内面の細い顎堤部などを磨く際は、Sサイズがぴったりフィットします。

加藤　良いですよね。柄がしっかりしているので、力を入れても意外と柄が曲がらずにきちんと磨けます。

「ホイップクレンズ」での手洗い洗浄のあとは、状態に応じて浸漬洗浄や超音波洗浄。またその後に手洗い洗浄に戻る場合もあります。細かいところの汚れを確実に落としたいときや超音波洗浄後に汚染物質が残留しているときなどはスチームクリーナーで噴射洗浄。汚れを落としたうえで義歯表面の艶がなくなっているときや、クラスプの内面の研磨が必要なときなどはリフレッシュ研磨。こういった流れで洗浄していきます。

そしてプロフェッショナルケアでは、洗浄のやり方の構築もさることながら、洗浄の工程によって狙った成果が出ているかを確かめる、いわゆるバリデーションも大切だと考えます（図7）。当院ではひととおり洗浄工程が済んだら、もう一度染め出しを行い、染まらないことを確認して完了としています。

上田　バリデーションのお話は聞いていてドキッとしました。でもおっしゃるとおりで、再度の染め出しは私もやろうと思いました。

加藤　さまざまな洗浄方法を試みても効果の有無を把握しないと、やっているふりになってしまいますからね。

佐氏　ワークフローを院内で実践するにあたって、汚染状況のチェックや洗浄剤など洗浄方法の選択は、スタッフが行っているのですか?

加藤　はい。患者さんを担当したスタッフが判断しています。歯石もプラークも見ればわかることですし、さほど難しくありません。また、患者さんごとに傾向があるため、カルテに洗浄方法を記録する欄を設けてあり、参考にできるようにしています。あとは、バリデーションにより洗浄効果を都度確認して進めているので問題ありません。

佐氏　難しくはないとはいえ、院内に根付かせるにはスタッフへの動機づけが求められそうです。

加藤　そうですね。院内での義歯などの洗浄の水準を高めるうえでは、やはり歯科衛生士の活躍が不可欠です。歯科衛生士はPMTCなど口腔内をきれいにすることは一生懸命やっていますよね。それで「いませっかくきれいにしたのに、こんなにクラスプが染め出される義歯をそこに戻せる?」などと言えば、「はっ!」と気づくと思うんです。きれいにした口腔内と同じくらいに口腔内装置もきれいにして戻すという感覚を持ってもらうと、洗浄に対するモチベーションも高まると思います。

上田　話が少しそれますが、特に高齢の患者さんにおいて、以前は義歯をきれいに保ってくれていたものの最近は汚れた状態で持ってくるようになった、という経験が少なからずあるのではないでしょうか。手や目が悪くなってきたなどの原因はあるでしょうが、オーラルフレイルの概念からするとこれはオーラルフレイルの入り口にあたる口腔健康リテラシーの低下なんですよね。要するにお口の衛生に対する関心度が低下している表れであり、歯科衛生士は義歯のプロフェッショナルケアを通じてそれにいち早く気づける可能性があるわけです。そういった面でも義歯のプロフェッショナルケアは歯科衛生士の活躍の場になると考えていますので、前向きに取り組んでほしいです。

司会・佐氏英介 先生

ゲスト・加藤正治 先生

ジーシー・片岡康弘

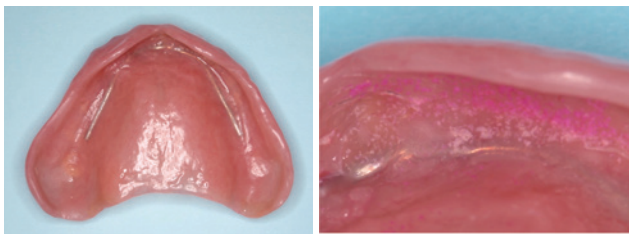

図7　洗浄後にもう一度染め出しを行って確認するとプラークが残っていることがあり、それを把握して徹底的に洗浄する。

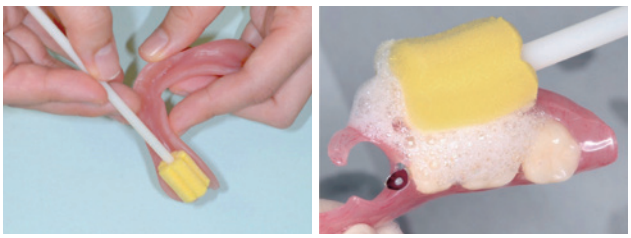

図8　リラインした義歯の内面や、ノンクラスプデンチャーを磨くのに、口腔ケアスポンジが役立つ。

図9　アライナーは破損しやすいため、力をかけない浸漬洗浄が有力な洗浄手段となる。高輪歯科では、チャック付きのポリ袋に口腔内装置と洗浄剤を入れて浸漬洗浄を行っている。

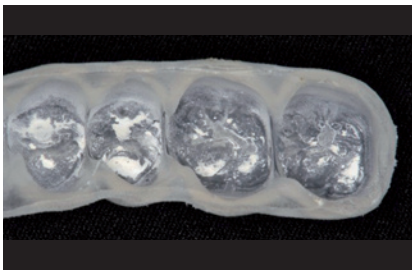

図10　ドラッグリテーナーなどは、中に製剤が残留していることがあり、これを除去できる清掃方法を選ぶ必要がある。

プロフェッショナルケアで注意したいこと

佐氏　院内での義歯洗浄について、注意点などはありますでしょうか。

上田　義歯では床の材質によって気をつけてほしいことがあります。例えば軟質リライン材やティッシュコンディショナーを使用している場合、ブラシでこすると軟らかいブラシであっても傷が付きます。先程も話に出ましたが、磨くときはスポンジの使用をおすすめします（図8左）。洗浄剤については次亜塩素酸以外のものであれば大丈夫ですが、発泡するものは泡が床とリライン材の隙間に入り込んで剥離につながるおそれがあり、好ましくないと考えています。

加藤　当院でも、リラインされた義歯は酵素系洗浄剤の浸漬でマイルドな洗浄を行うようにしています。ノンクラスプデンチャーも同様で、塩素系洗浄剤を使うとすぐに艶がなくなってしまうので洗浄剤の選択には注意が必要です。非常にデリケートなので、手洗い洗浄では「ホイップクレンズ」とディスポのスポンジを使うのが衛生的で良いと思います（図8右）。

佐氏　磨くときには床に傷を付けないようにすること、材質と洗浄剤の相性を理解することなどが大切ですね。

　では、義歯以外の口腔内装置についてはどうでしょうか。

加藤　院内で洗浄するものをざっと挙げると、矯正のためのアライナーや床矯正装置、ホワイトニングトレーなどのドラッグリテーナー、スリープスプリント、マウスガードなどがありますが、いずれも考え方は義歯洗浄と同じで、材質や形状などに気をつけて洗浄することが必要です。例えば、床矯正装置ならスクリューなどが入っているため普通の洗浄だけではきれいにしにくい。スリープスプリントは夜寝る前に装着するものなので汚れの程度はそれほどではないですが、装着感を良くするため中に軟らかいシートが敷かれていることがあり洗浄時に注意が必要。矯正用アライナーは着脱を繰り返すためにクラックが入っていることがあるので、磨く際はなるべく力をかけないようにする。ドラッグリテーナーは、中に製剤が残留していればそれを取り除く必要がある、といったように状態はさまざまです（図9、10）。これらのことに対応するには特に磨く器具が重要で、義歯用ブラシだけでは難しいので、やはりスポンジなども含めて院内での洗浄方法を考えていただければと思います。

超音波洗浄の真価を引き出す適切な使い方

佐氏　院内での洗浄に超音波洗浄器を導入している医院は多いと思います。加藤先生のワークフローに超音波洗浄が含まれていましたが、どのような考えで使用されているのでしょうか。

加藤　超音波洗浄は、超音波と洗浄液の相乗効果で洗浄を行うものですので、やはり洗浄する物とその汚れに合わせた洗浄液の選択は大切です。

　超音波洗浄を行ううえで押さえておきたいのは、厚みのある軟らかい汚れを取るのが苦手ということです。超音波の振動によって発生した気泡が破裂するときの衝撃で汚れを落とすので、例えば義歯安定剤の残留物などベタベタした汚れは取れないんですよね。なので、基本的には先に手洗い洗

	方法	メリット	デメリット
直接洗浄	洗浄槽の中に直接洗浄物と洗浄液を入れる	パワーの減衰がない（ただし洗浄かごやメッシュのカップを使用した場合はパワーが減衰する）	強酸、強アルカリの洗浄液は洗浄槽の破損や故障の原因になるため使用できない
間接洗浄	洗浄槽に水を張り、洗浄液と洗浄物を入れた容器をその中に置く	適切な容器の選択により強酸、強アルカリの洗浄液が使える	直接洗浄と比べてパワーが減衰する（容器の材質によって減衰の程度は変わる）

表2　超音波洗浄の直接洗浄と間接洗浄の比較。

図11　間接洗浄の容器としてチャック付きのポリ袋を使用すると、メリットが多い。

浄を行ってから超音波洗浄という順番で行うべきで、当院のワークフローもそのようになっています。

そしてもうひとつ押さえておきたいのは、超音波洗浄の洗浄力についてです。超音波洗浄器の機能テスト用インジケーターで調べたことがあるのですが、大型の超音波洗浄器は洗浄物を置く場所によって洗浄力に差が出ることが多いです。どこに置いても同じというわけではないことは念頭に置いておいてください。また、超音波洗浄には洗浄槽に口腔内装置と洗浄液をそのまま入れる直接洗浄と、洗浄槽に水を張り、その中に口腔内装置と洗浄液を入れたトレーなどを置く間接洗浄があります。両者の主な違いは表2のとおりですが、間接洗浄は容器による減衰により直接洗浄に比べると洗浄力が劣るということも頭に入れてもらえればと思います。

佐氏　例えば義歯を超音波洗浄器にかける際、直接洗浄だと人工歯がチッピングするおそれがあるためプラスチックの容器などに入れて間接洗浄することになると思うのですが、その場合は洗浄の時間を長くすれば良いということでしょうか。

加藤　そのとおりです。ただこの話で難しいのは、直接洗浄にしろ間接洗浄にしろ、十分な超音波洗浄にどれほどの時間が必要かについて明確な答えがないところなんです。

佐氏　器材や洗浄物、置く場所などによって変わってくるということですね。

加藤　はい。だからこそ、先ほどお話ししたように洗浄の効果を確認するバリデーションは必須だと考えます。

上田　間接洗浄を行う際、私の病院ではチャック付きのポリ袋を容器として使っているのですが、何が容器に適しているのでしょうか?

加藤　それも調べていまして、ステンレスのカップ、プラスチックのコップ、紙コップ、ポリ袋などでの洗浄力を比較すると、もっともパワーの減衰が少なかったのがポリ袋でした。ポリ袋は洗浄液に耐性があり、ディスポーザブルで低コストと利点が多く、当院でもポリ袋を使用しています（図11）。

上手くいくセルフケアのポイント

佐氏　最後の話題は、義歯などを清潔に保つうえで大きなウェイトを占めるセルフケアです。上田先生は、患者さんにどのような義歯のセルフケアを指導しているのでしょうか。

上田　基本的には、朝昼夜の毎食後に泡タイプの義歯洗浄剤と義歯ブラシで手洗い洗浄、さらに夜は手洗い洗浄後に錠剤などの浸漬タイプの義歯洗浄剤に漬けていただくように指導しています。

片岡　当然ながら、セルフケアでも機械的洗浄と化学的洗浄を併用すべきということですね。

上田　はい。ちなみに、この指導を推し進めるうえで泡タイプの洗浄剤の登場は大きかったと思っています。というのも、昔は朝と昼は水とブラシによる機械的な手洗い洗浄のみ、夜に錠剤タイプの義歯洗浄剤の浸漬で化学的洗浄といったセルフケアが一般的でした。機械的洗浄と化学的洗浄の併用が有効だとわかっていたのにそれを患者さんが実践しづらかったんですよね。いまは泡タイプの洗浄剤が普及したことで、機械的洗浄と化学的洗浄の併用をより効果的に指導できるようになりました。泡タイプの洗浄剤を使って磨くと、汚れを落としやすいことはもちろん、洗ったあとにサッパリすることで“ちゃんと洗っている”という感覚が得られるようで、セルフケアのモチベーション向上にもつながると思っています。また、義歯洗浄に歯磨剤を使ってしまう方がいるのですが、そういった方にリプレースとして、研磨剤無配合でミントの香りつきの「ホイップクレンズ」を勧めるのも有効だと考えます。

佐氏　患者さんによっては、夜に洗浄剤に漬ければ大丈夫と考えている方もいそうですが、そういった方にはどうアプローチをしていますか?

上田　いかにバイオフィルムを形成させないかが衛生の維持には大事です。バイオフィルムの形成には時間のファクターが大きいので、毎食後に効果的な洗浄を行うことで、一日の中でバイオフィルムを抑える回数を増やす、といった視点が指導のカギになると思います。なお、毎食後泡タイプの洗浄剤できちんと磨いていれば、夜の洗浄剤への漬け置きは不要とも考えています。

図12 「ルシェロ 歯ブラシ B-30 グラッポ」は、セルフケアの洗浄にも使いやすい。

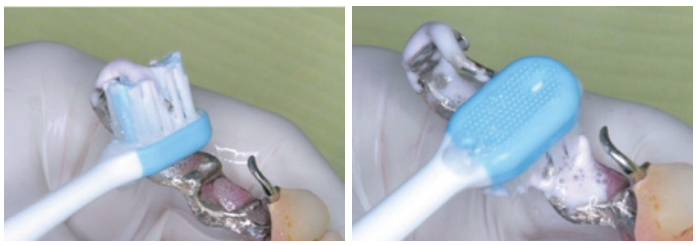

図13 電動歯ブラシは、セルフケアでの手の動きをサポートできる。

誰が	本人・介助者・専門家
いつ	時間帯・曜日・回数
どこで	家庭・診療室
何に	歯・粘膜・義歯・舌
何を	ケア剤・ツール（ブラシ／ドラッグリテーナー）
どうする	器材の使い方・回数・時間・方法

表3 口腔内（義歯装着者を含む）のケアをマネジメントするために押さえておきたい項目。

佐氏 では、患者さんにセルフケアのやり方をどのように指導していますか?

加藤 当院では、義歯を新製して調整が済んだ後に、歯科衛生士が着脱の練習などを行うのとあわせて洗い方を指導し、「ホイップクレンズ（180mL）」とブラシもセットで購入していただくという流れが多いです。義歯以外の口腔内装置もだいたい同様ですね。最初の指導の後は、定期来院の際に染め出しの結果をもとに、さらに指導を重ねていきます。

上田 セルフケアにおいて、ブラシの当て方まで教えている医院はあまり多くないと認識しています。ブラシの当て方を目の前で少し見せるだけでも患者さんの理解度が高まりますので、ここを丁寧に行うのは大事だと思います。

加藤 付け加えると、患者さんに洗ってみてもらって、その様子を観察するのも有効です。器用さなどが手の動きでわかり、指導に活かせますので。

上田 あと、先ほどのアンケートで、患者さんがセルフケアの指導は受けたものの忘れてしまう可能性が示唆されていましたが、指導を成功させるには、定期的な指導を怠らないことも大事だと思っています。一度教えたからもう知っているはずといった甘えは厳禁ですし、指導したことを患者さんが自宅できちんと行っているか、頻度などを含めて確認することも大事です。

片岡 ちなみにですが、義歯のセルフケアで用いる器具は、やはり義歯ブラシが第一選択でしょうか。

加藤 基本的に義歯ブラシで問題ないと思いますが、患者さんや医院の状況に応じて選べば良いでしょう。例えば、当院では「ルシェロ 歯ブラシ B-30 グラッポ」を義歯洗浄用としても紹介しています（図12）。毛が適度な硬さであり大きめのサイズで、グリップもしっかりしていて患者さんからも使いやすいという意見があります。他には、普段電動歯ブラシを使っていれば、義歯用の替えブラシを用意して洗浄に使っていただく例もあります（図13）。これは手の動きがおぼつかない方の選択肢としてアリだと思っています。

洗浄をマネジメントして確実な口腔衛生管理を

佐氏 今回は口腔内装置の洗浄について議論を重ねてまいりました。最後に読者にメッセージをお願いします。

加藤 口腔内装置の洗浄を含む口腔ケアは「誰が」「いつ」「どこで」「何に」「何を」「どうする」といった部分を明らかにして、“マネジメントする”というスタンスが肝心だと思っています（表3）。医院でできることを考え、予算なども含め患者さんの状況や背景を理解し、負担にならない範囲で提案していかなければなりません。

そしてバリデーション。きちんとできているかを自分たちで検証しないと、やったことが無駄になっているおそれすらあります。どうせやるならきちんと成果が出る方法でというところを、一度見直してみていただきたいです。

上田 義歯の洗浄について言うと、「ホイップクレンズ」のような泡タイプの洗浄剤があることによって、患者さんに「機械的洗浄と化学的洗浄を毎食後しましょう」と自信を持って説明できるようになっていますので、効果的なセルフケアを積極的に提案していただきたいと思います。

昨今の口腔健康管理の概念は、口腔機能管理と口腔衛生管理を一体として考えて、口腔の健康を実現していくというものです。義歯などの口腔内装置の洗浄は口腔衛生管理の重要な要素であり、口腔機能管理にも関係しつつ、口腔健康を支えていくものですので、ぜひおろそかにせず取り組んでみてください。

佐氏 ありがとうございました。